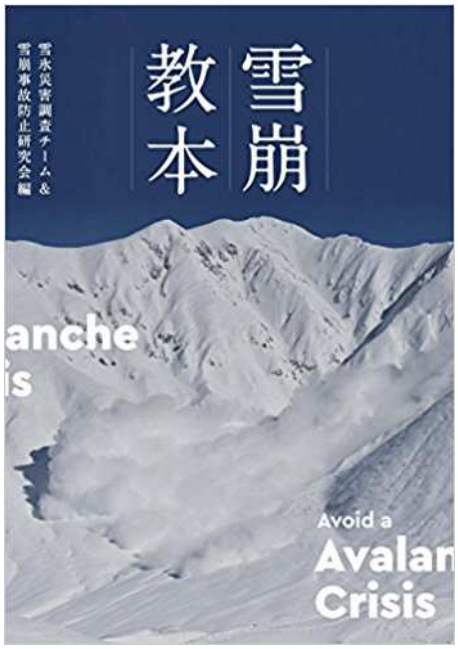
不定期刊行　　第644号　2018.03.17

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩

雪崩教本（山と渓谷社刊）



昨年 12 月に出版された雪崩に関する最新の技術書を紹介する。那須の雪崩事故を受けて、「山岳雪崩大全」を世に送り出した雪氷災害調査チームが「高校生にも学べる雪崩の教科書」を作ろうというイメージで作ったのがこの本である。専門的な内容でありながらも、高校生にも十分理解でき、かつ現在の最新の情報が盛り込まれているということで、生徒はもちろん、高校山岳部顧問必読の一冊といってもいいだろう。

著者の代表は阿部幹雄さん。他に執筆されたのはこれまで高雪研でずっと講師をしてきた中村一樹さんをはじめとする雪氷災害調査チームの3名。最終章の「雪崩サーチ＆レスキュー」はスイス在住で雪崩トランシーバーの開発や雪崩捜索救助手法の考案などこれまで雪崩研究に深くかかわってきたマニュエル・ゲンシュワインさんの手になっている。前号の「かわらばん」で紹介したが、雪氷災害調査チームは20日から22日まで国立登山研修所で、講習会を開催し、その講師がゲンシュワインさんである。

これまで7か所で開催してきた、高雪研でも「雪と雪崩の科学」「雪崩リスクマネジメント」「雪崩サーチ＆レスキュー」というこの本の枠組みに沿った形で講習が行われてきた。雪崩を知るためにはなぜ雪崩が起こるのかを知らねばならない。そのためには、雪崩を起こす雪がどういう性質を有するのか知らねばならない。降雪の仕組みから、雪の形態の違い、そして雪崩のメカニズムへと、著者が意図した通り高校生でも十分理解できる内容だと思う。第2章で述べられている「雪崩リスクマネジメント」は、雪崩のリスクを「雪崩ハザード」「曝露」「脆弱性」という3つの要素から分析し、雪崩事故をいかに避けるかを述べたうえで、雪崩対策装備を説明している。最終第3章では、コンパニオンレスキューに多くのページを割きその実際を説いている。

雪崩について最低限知っておかねばならないエッセンスがつまった一冊といえるだろう。1000円という価格設定も嬉しい一冊である。

高雪研を終えて・・・高校顧問の養成について

国立防災科学技術研究所などの協力を得て、全国7か所で高雪研を終えた。どの県でも概ね成功だったと思う。雪や雪崩の科学はもちろん、これまであまり高校顧問の間で普及していなかったビーコンの扱い方やコンパニオンレスキューなどを知っていただくこともできたことは大きな一歩だったと思う。どの県でも、50代の顧問が主流で後継者不足、若い山岳部顧問の養成は喫緊の課題となっている。

高雪研については、これまで各県の高体連などで行われてきた講習会に乗っかる形で開催させていただいた。今年は予算的な負担がなかったこともあって、どの県でもあまり負担なく開催できたが、雪崩教育についての研修が今年限りで終わってしまうことなく、継続的に行われていくシステムが確立することが望まれる。そのために、高雪研では講師をできるだけ、その土地のガイドなどから選任し、顔つなぎにも心がけた部分がある。今後は各県の高体連と今年講師として講習会を支えてくれた方々とが直接連携を取りながら、その県独自の形で講習会を開催していくような形ができていく事を強く望んでいる。

一方で、栃木の雪崩事故後、高校顧問の育成に向けては国も本腰を入れ始めている。スポーツ庁は、各都道府県に来年度の高校顧問講習会の開催を開くよう通知を出しており、実際に多くの県で開催がされることになったらしい。長野では、6 月に山岳総合センターが、7 月と 11 月には県体育センターが主催となって、高校顧問向けの講習会が開催されることになった。

また、スポーツ庁からの要請を受けて、国立登山研修所では、夏と冬に高校顧問向けの研修会が新設されるとともに、高校顧問のためのテキスト作りにも着手した。夏の研修会は夏休みの縦走を前に、冬の研修会は春休みの講習会などを想定しての研修になるだろうことが予測される。テキスト作りについては、全国高体連からは松本部長、谷口事務局長と小生が参画、ほかにも国内の専門家がかかわり、来年度のうちには完成する。どちらも期待をしたい。

小野田さんと、雪男を探した男～鈴木紀夫の冒険と死～

日山協の八木原圀明会長から表記の番組の紹介がありました。3 月 25 日（日）午後 10 時から 11 時 30 分までＢＳプレミアムでの放映だそうです。内容は、「戦後 29 年もの間、フィリピンのジャングルに身を潜めた小野田元少尉。彼を日本に連れ戻したのは、たった一人の若者だった！その若者の名は鈴木紀夫。冒険家を目指した紀夫はその後、ヒマラヤで雪男発見に没頭し、雪崩に遭い、37 歳で生涯を閉じる。70～80 年代、経済成長する日本社会に背を向け、なぜこのような生き方を選んだのか。小野田や雪男捜索の初公開資料を交え、男たちの生きざまをドラマ＆ドキュメントで描く。」というものだそうです。興味のある方はぜひ、ご覧ください。

編集子のひとりごと

那須の雪崩事故から間もなく 1 年を迎えようとしている。春休みを間近に控え、どの学校も合宿計画の細案を立てているところだろう。本校でも 3 月 29、30 日を使って、乗鞍岳での合宿を計画しているところである。私自身は前任校以来、ここ 7 年毎年同じようなところで、同じようなことをやっている。その意味では、那須の講習会と同じである。しかし、那須の事故ではそこに大きな落とし穴があった。毎年、雪の状態は異なっている。生徒の力量把握も十分にしなくてはならない。審査会での意見も参考にしながら、安全の上にも安全にということを心がけ、事故のないような活動しなければならない。（大西　記）